

## 令和2年度事業報告

### 1 事業の種類別、年間利用者実績

#### 社会福祉事業第二種

(1) 認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護(介護保険法)

定員 18 人 . . . . . 6,373 人(年間延利用者数) 前年 6,459 人

(2) 小規模多機能型居宅介護・介護予防小規模多機能型居宅介護(介護保険法)

登録定員 25 人 . . . . . 7,392 人(年間延利用者数) 前年 7,157 人

※「通」「泊」「訪」サービス利用回数の合計

### 2 職員定数と職員勤務実績比較

#### 社会福祉事業第二種

(1) 認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護

11 人に対して . . . . . 10.43 人 前年 10.34 人

(2) 小規模多機能型居宅介護・介護予防小規模多機能型居宅介護

9 人に対して . . . . . 7.21 人 前年 7.86 人

### 3 事業運営基本計画に対して

経営基盤の強化を図りながら利用者の意向を尊重したサービスを提供することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができることを基本に計画を立て事業を行う。またその実行のため、研修等により技術の向上に努める。

基本となる 2 事業において、収入面は当初の見込みこそ下回っているが、安定的にサービスを提供できている。課題であった支出面については、慢性的な人材不足が深刻化したため、主に人件費が大幅減となり若手人材の確保が急務となっている。

また、今コロナ禍においても、一部資料配布等も活用し内部研修を継続し、介護技術の向上に努めた。

#### 社会福祉事業第二種

(1) 認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護

なごみ園グループホーム

宅老所時代から地域の方々に信頼されている当グループホームへの期待は高く、介護職員の更なる介護技術の向上が求められている。また、地域福祉への貢献のため、地域の幅広い方に対して活動を行う。

- ① 認知症があっても、専門的知識や技術により利用者一人一人に合わせた生活スタイルを追求し、ご家族の協力も得て、安心してその人らしい生活が継続できるよう支援する。
- ② 高齢や疾病により、歩行機能が衰えた利用者に対しても、外出機会を持っていただき、より充実した生活が送れるよう支援する。
- ③ 地域行事への参加や運営推進会議等の活用により、地域との交流を図り、地域へ開かれたグループホームを形作っていく。
- ④ アドバンスケアプランニングに取り組み、利用者の望む終末期へ向けての支援をさらに検討していく。
- ⑤ デイサービスセンターを、地域の方の交流の場(かぼちゃの会)として活用していただく。
- ⑥ デイサービスセンターのスペースを利用し、生活困窮者への食事提供サービスを行う。

コロナ禍ということもあり、介護職員体制の維持・確保が大きな課題であったが、感染対策も功を奏し安定したサービス提供を実施できた。

今後も、看取り等の研修を継続的に行い、介護の質の向上を図り、地域の期待に応えられる事業所を目指す。

## (2) 小規模多機能型居宅介護・介護予防小規模多機能型居宅介護

### なごみ園小規模多機能ケア

利用者の自宅また地域での生活の継続を支援する宅老所の介護サービスを、そのまま受け継ぐ在宅支援型サービス。「通い」、「泊まり」、「訪問」の介護サービスを登録利用者へ提供する。家に帰ることの困難となった入所希望者への(中間施設として)泊りサービスが長期化している方もおられるが、他事業所とは違う柔軟な対応が求められる。

- ① 登録利用者の在宅生活継続を支援する為、介護計画を作成しそれに沿って、その方の地域での生活を支えていく。
- ② 様々なアクティビティプログラムを提供し、利用者の生活の活性化を図り、出来るだけ長く在宅での生活を継続できるようサポートを行う。
- ③ 地域行事への参加や運営推進会議等の活用により、地域との交流を図り、地域とのつながりを持続するケアを行う。

利用者の方の入れ替わりがあったが、登録利用者数は横ばいで推移した。「通い」「泊まり」利用のニーズが相当数あり、宿泊定員のため、時々「泊まり」利用を希望される方のニーズに対応するのが難しい状況ではあるが、サービス利用のバランスを整え、今後も登録利用者の増加を図る。

ケアに関しては、小規模多機能型居宅介護ならではの多様なニーズに対応することが出来ている。また、三毛門公民館にて開催される「いきいきサロン」(月一回・二か所)へ職員を派遣し、お手伝いや健康相談等にて協力体制を築いている。好評につき、継続している。

## 4 利用者の処遇

### (1) 生活指導

常に利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに必要な助言その他の援助を行う。

### (2) 給食

安全、またできるだけ旬の材料で栄養や利用者の心身の状況及び嗜好を考慮した食事の提供(パン食の方はトースト、牛乳等。毎朝、8種類以上の具沢山のみそ汁、ジャコ付き大根おろしを提供)、また、嚥下機能に合わせたキザミ食、ペースト食等食事形態に配慮した食事を提供する。

### (3) 環境の整備

利用者が安心、安全に過ごされる木造りやバリアフリーの住環境を整え、季節の変化に応じた空調設備、生活に応じた照明等、環境の整備を行う。また、老朽化した設備の修繕を行う。

概ね計画通り遂行出来ている。夕食の提供のみは、(株)サンワシステムサービス(行橋市)を利用する形を一年間継続した。

## 5 健康管理

健康管理の責任者を定め、利用者や職員の健康診断を年1回以上行い、また、利用者のかかりつけ医や家族との連絡を密にし、利用者が安心して日常生活が送れるよう支援する。また、ターミナルケアについては、これまでのご本人、ご家族の希望、かかりつけ医の協力、その方の医療に対応する職員体制(喀痰吸引・胃ろうの方への栄養注入等)を整え、支援を行う。

以上の項目に関しては、計画通り遂行出来ている。

## 6 防災計画

非常災害に備えて消防計画、風水害、地震等の災害に対する計画を作成し、防災管理者を中心に定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行う。特に「災害時メール送信」については、早急に整備を行う。

火災を想定した避難訓練のみ実施できている。その他の災害に対する備えが不十分であるため、計画策定から見直しが必要である。

## 7 日課

花見、ソーメン流し、夏祭り、紅葉狩り、クリスマス会、初詣等季節に沿った行事 や、毎月の誕生日会等、介護計画に織り込み、また、地域において利用者がそれぞれの役割を持ってその人らしい日々の生活を営むことができるよう支援する。また、天候を考慮しながら、外気浴や散歩など一度は外出支援を行う。

今コロナ禍においても、事業所やユニット単位で感染対策を行いながらの活動を一年間継続したが、全体行事や地域行事への参加は、中止や規模縮小を余儀なくされた。

## 8 その他

### (1) 地域での活動として

- ①デイサービスセンターホールを利用し、地域の方または、なごみ園利用者の参加できる行事を行う。
- ②認知症サポーター養成に対応できるよう、キャラバンメイト派遣支援の準備を行う。
- ③福岡県社会福祉協議会等が中心に取り組む「ふくおかライフレスキュー事業」に参加し、地域の福祉増進に寄与する。また、豊前市社会福祉協議会とも連携を図る。

コロナ禍ということもあり、職員が積極的に地域へ出て行く余裕はなく進展できなかった。